



三重県 栗木 啓介 16歳

「やっぱり 行くわ」

「今から行ってもかたづけ位しかできないよ」

2014年9月30日陸上部のキャプテンだった君は、早朝からのテスト勉強を切り上げ、朝練に行ってしまった。

これが啓介との最後の会話となりました。

君の自己ベストタイムは100m 11秒 66。

短距離選手だった君は、タイムが出るようになったと喜び、大会ではもっと結果を出すと意気込んでいた。

生真面目な君は学校前の横断歩道で2台の車を見送り、安全確認をして渡っていたのに、なぜこんなことになってしまったのか？

加害者は自分のときも止まってくれるだろうの「だろー運転」だった。 悔しい！！

朝、君と話すことが出来なかった父

君との約束を叶えることが出来なくなった兄

君の背中を追うことが出来なくなった弟

そして、一瞬で夢を失った君。

私達は君の未来をずっと見守っていけると思っていました。

一瞬ですべてが壊れ、後悔が残り、心の中は埋められないほどの大きな穴が出来ました。

それでも私たちは今、心に開いた穴を君との思い出を詰め込んで、前に進もうとしているよ。

啓介！！ 私達を空からしっかり見ていて下さいね。

